
きゃち！

離宮 愛琉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きゃち！

【Nコード】

N2942B

【作者名】

離宮 愛琉

【あらすじ】

そう、彼女の名前はきゃち、ウチの学校で密かなブームを巻き起こしているこの「KYACHII・STORY」いま、机よりココに降臨！

1話きやち、現る！

＊おことわり＊

この作品は、ちよっぴり現実、かなりフィクションの完全コメディーです

学校でちよっぴり小説ブーム到来！ってな感じで机に書き始めたのがココに今降臨！っ

て感じです（笑！）

ですので、そのまま…書いちゃおうかな〜w

そう、彼女の名前は『きやち』。恋に恋する乙女（？）です！

きょうも元気に「うわぁ！変態！」叫んでいます。

…なんだとを〜？

「まて！きやち！」

そんな訳で

『KYADHIS STORY』今始まります！

ただいまロード中

そうですね…まずは自己紹介ですが、

私は彩です。ただ、師匠と呼んでくださってもかまいません。

さて、この「KYACHIS STORY」ですが、主人公は私ではありません。

「きやち」というごく普通のはずの女の子のはずです。

きやちと私は「奇矢知中学校」に通っているちよっとかかなり変わった中3です。

受験前にこんなことしてる時点ですが、まあよいでしょう。

まあ、事実をもとにする以上、キャラもがいるわけですが、そんな無駄な「キャラもと探し」なんかする時間があつたら勉強をすることを勧めいたします。

さて、今回の…いえ、一話はとりあえず事実でも書きましょう。
題名は…「きゃちのキャッチボール」でどうでしょう？

しよっぱなから申し訳ありませんが、どうにも、これを書かないと落ち着かないので…

机に書いたのを移します。

さて、きゃちですが、この机（教卓のまん前から4番目）から見て、左斜め45°。辺りにいる、

ええ、そう。多分違います。だつてきつと彼女は今、どこかへ遊びに行っていますから、

そこにはいませんよ（多分）彼女は一体どこにいたのでしょね。

私には見当もつきません。

ところで、これを書くに当たって、ひとつ注意しなければならないことがあります（仮）

それは「先生にどうやって見つからないように隠して書くか」です。いまのところ、第5話までかいてしまったので、ほとんど溢れ出ています。

手入れも大変なんです。シャープペンで書くもんだからすぐに消えちゃうし。きゃちは嫌がつて消しちゃうしで、こっちはたまったものじゃないんです。（え？何か言いました？）

ええ、そんな訳でキャッチボールをしたわけです。（まだ何か？）
きゃちはここぞとばかりにドッチボールのようにボールを投げてきます。

時速…いや、秒速50mぐらいが妥当でしょう。

私は危うく骨折しそうになりましたよ。（ほんとうですよ？）

いえね、きゃちはバレエ部なので、しかも凶暴なので気をつけて扱わなければなりません。

きゃちは基本的にボールが好きですね。

キャッチボールって意外とネタがありませんねえ…まあ、良いでしょう。

では、そろそろ…

そうですねえ…きつと二話もありますよ。

KYACHI can fly!

今日は曇り…やっぱり嫌な事がたくさん起こったわ…
なにより、机のきゃちを消しちゃったの！

と、いうことで…

机のをここに温存させてしまおうと思います！

「KYACHI CAN FLY！」

「ホントに助けて…；×2（笑）」

いつもどーり、きゃちは他人が聞いたら絶対に意味が分からないで
ある言葉（？）

を発しながら現れた。

片手にはテールクロス。

ズルズルと引きずりながら…あ、こけた。

「イタツ！×2 うあゝもゝサイアク」（笑）」

…アホか？大丈夫なのか？

「ねえ、手伝ってえゝ」

…大丈夫では…元々なかったか…。

「はい×2。不器よーきゃち。」

「えっヒドくなーい？」

酷くない。だつて…

「ちよつとまつてえゝ！」

「もう！いい！触るな！あつちいけ！」

毎回私が一人で畳むんだから。

「私がやってあげるよー」

それは、きゃちとは正反対のナツノさんでした。

「うヴゝ…」

…なんできゃちが唸ってんの？

「どした？きやち？」

私がきやちの肩に手を置いた瞬間

「うわぁ！変態！」

「……………ヘンタイ？…な・ん・だ・とー！？

「アホか！きやち、まてゝ！！」

「うわぁ！ちよ、ちよ、ちよ、ちよとまつてえゝ？」

注：きやちは人一倍、くすぐりに弱い。

「わぁー！！！」

「まてー！！！」

「……………」（私たちを見ているナツノ）

やつときやちを北階段でつかまえた。

「おりゃ！」（わたしのくすぐり）

「わっ！まつて、まつて！」

待つやつがどこにいる！？

「……………I can fly！」

…は？あれ？え！？きやち、今窓から飛び降りなかった？

窓の下の方から変な声が聞こえてきた。

「私は死にましえゝん！」

…頼む。一回だけでいいから死んでくれ。

「イエ イ！」

いいや、今から殺しに行つてあげる

「とうつ！」

え…！？きやち、わざわざ殺されにもどってきたわw（もちろん、窓から）

ポンッ！x2

ん？誰？あ、ナツノ：あ！テーブルクロス、忘れてたあ！

「あんたらねえ…どんだけ天然なの？」

こうして「天然コンビ」は誕生した（仮）

君

まあ、題名で分かると思いますが、今回はきやちの好きな人についてです。

…相当嫌がつてますね…でも、もうやっちゃうので…

「えゝ！ちよつと待って！」

嫌です。では、始めます。

「ね？…ね？」

手を握らないでください。そんな必死な目を向けしないで下さい。

余計、書きたくなっちゃうでしょう？（笑）

では…って！うわぁ！なにすんだ！

「かかるよゝ？」

いや、思いっきりかけてんだろ！（水）

「手ゝ洗っただけだよゝ？」

…ゲシっ！

「痛っ！待ってx4！」

逝つてらっしゃゝいw気をつけてねえ

と、言いつつ、私はきやちをそれこそ地獄の一年の教室に突っ込んだわけですが…

どんな声が聞こえますか？ん？何か折れる音が聞こえたような…

バキッ！

ドス！

「うわぁゝ！」

「きやぁゝ！…！」

………嫌な予感………

「あゝやゝぁゝゝ！…！」

死んでないっつ！？あの地獄の中でも！？

（奇矢智中は一年が酷い荒れ模様です。また、二年も力ナリのものでしょう。）

親切に解説ありがとう！謎のおねえさん！

「ジャンケンぽい！」

あっちむいてほい。

「ジャンケンぽい！」

あっちむいてほい。

「ジャンケンぽい！」

あっちむいてほい。

「負けた〜」

三回連続で負けるとは…すごいなあ…（笑）

ところで、きやち。後ろにとんでもない事をしようとな…

「え？何ー？」

ベキッ！

して、思ったようにならなくてカナリ驚いてる一年が一人。

「違うよ。椅子でぶん殴ろうとして、椅子が壊れてカナリ焦ってる馬鹿な一年の男子だよ。」

大体同じです。

「そお？」

…その日は、一年にとって衝撃的な日でしたでしょうね。まあ、これはとりあえずフィクションですが、近いうちに実現させて見せますよ。…受かったらねっ！

ところで、読んだら感想をください。あなたも。そのあなたも。そして…

「なにー？何書いてるのー？」

きやちのすー…

「なにやってんのー！？まずいよーこれはー！」

次回をお楽しみに！

マジで感想くださいっつ！

「キャラ変わってるよー？」
いいんだ。

「いいんだ？」

未知との遭遇

「ねえ……」

なにか？

「彩さあ」

うん。

「別の小説にウチの事載せなかった？
見れば分かるよ。」

「……………」

……………

『受験生つてろくな事ない!!』

まあ、そんなもんだよね。

「そんなもんか」

ウチ、明日だし。

「そっかあ……え!？」

都立は23日よ？

「彩さあ」

うん。

「最初とキャラ違うわい？」

そんなもんよ

「そんなもんか」

いいけどさあ、

「何？」

何で、私は放課後に教室でキミに数学を教えているのかな？

「そんなもんよ」

そんなもんか

……………

「……………」

トイレ！

「え!?!え!?!」
行くぞ!

「いいよあゝ」

トイレ

そういえば...さ、

「何?」

「このトイレってお化け(?)出るんでしょ?

「うん。勝手にトイレ流れた事あるよ。」

今さあ、

「うん」

「ウチら二人だけじゃない?

「うん」

「一番出やすい雰囲気じゃない?

「.....」

.....

「っ!」

あゝゝゝ!?!?!!

「うゝわゝあゝゝゝ!?!?!!」

「バカゝ!手くらい洗って行けゝ!」

「うわあゝ!」(洗いに来た)

「ちよつとおゝ!おいてくなあゝ!バカあゝ!」

教室

「そういえばさ、

「何?」

「こんな話、知ってる?

「え?何?」

ある女の子がね、忘れ物をして学校まで取りに来たんだって。

「それで？」

机からね、取ろうとしたらガタツって音がしたんだって。

「……………」

よく見ると、廊下側から三番目の4人目の席から手が出てたんだって。

「何気リアルじゃない？」

作り話だけだね。

「うわっ！酷くない？」

そお？

「そういえばさ」

ん？

「さっきから音しない？」

変な事言っなよ。

「うちさ、見えるんだよね」

…初耳。ってか何を言っていらはるの？

「でもさ、テレビとかみたいに青くないよ？」

これは、天然っただけで片付けられるのか？

未知なる体験でした。

「何が？」

未知との遭遇でした。

「？」

きゃちとは未知なる生物です。

「え？酷くない？」

って口癖？

「そうかもw」

ところで、

「何い？」

君とはどお……

「彩！あゝやゝ？」

怖いよ？お化け以上に……！！！！！！

「ふふふふふふ………」

きやあああああああああああああ……！！！！！！

この後の事は、ご想像にお任せします。

「彩！！！鬼ごっこヤロー！！」
また来やがった！！！！（怒）

〃〃今日の一言〃〃

何なんだよ！！！！？

眠みいぜこんちくしょう！

ボクだつて彼氏くらい欲しいっちゅうの！

「作ればいいじゃん？」

……できないから悩んでいるんだろう？

「できたんじゃないかなかったっけ？」

いるけど…（？）

「何！？」

ちよつと（カナリ）違うとおもつ。

「…でもいるんでしょう？」

…いや…

ボクは…

「ツンデレ」

では

ない

よ？

「何それ！？」

まあ、そのうちな。

「教えてよお！」

…うるさいわね…

首狩るわよ！？

（分かる人には分かるでしょう？笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2942b/>

きゃち！

2010年10月9日01時51分発行